

1. 2019 年度 健康診断事業の実施状況

2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までに実施した健康診断の受診者総数は 919,572 人（表 1）であり、今年度は対前年度比 100.6%と若干の増加となった。

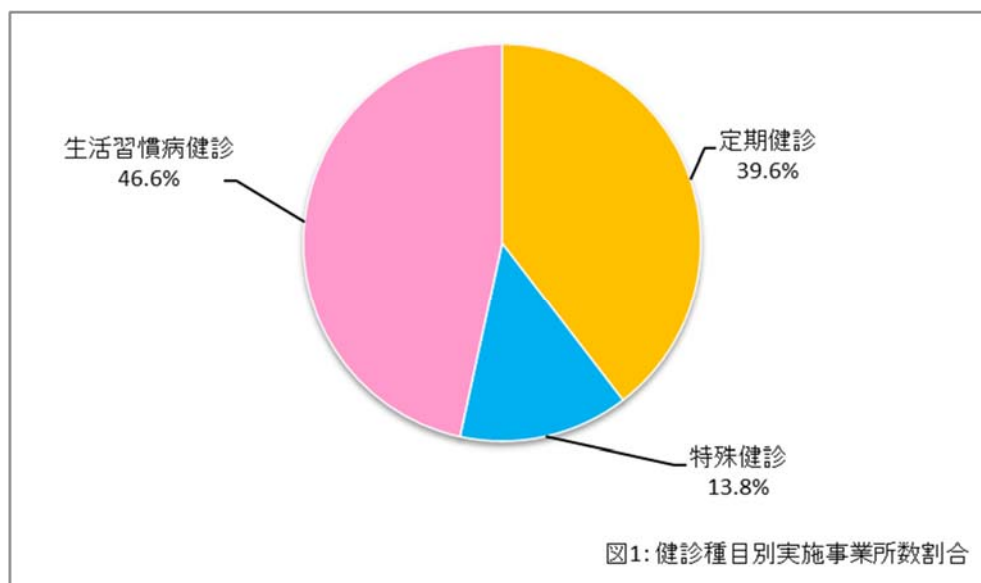
表 1: 健診種目別件数

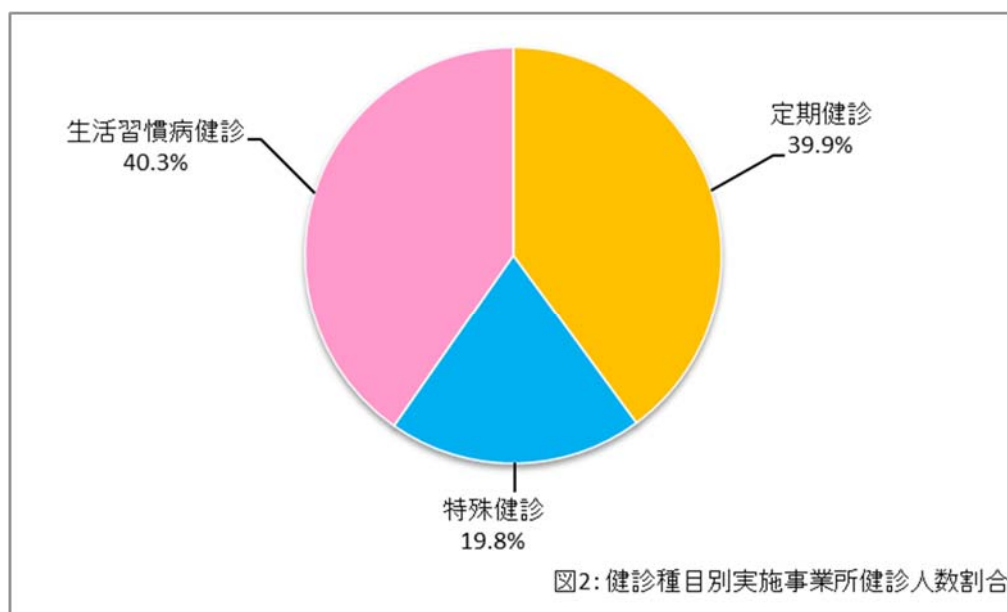
	事業所数	健診人数
定期健診	25,702	367,116
特殊健診	8,966	181,983
生活習慣病健診	30,246	370,473
合計	64,914	919,572

2019 年度の健康診断種目別割合は、(図 1)に示す通り、事業所数では生活習慣病 46.6%、定期健診 39.6%、特殊健診 13.8%となっている。健診人員で見ると(図 2)にある通り、定期健診 39.9%、生活習慣病 40.3%、特殊健診 19.8%であり、定期健診、生活習慣病健診は共に約 4 割前後の受診であった。

2019 年度の定期健康診断の受診者数は 367,116 人で前年より 14,871 人（前年比 3.89%の減少）であった。

*各図表の構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない場合があります。





2. 2019年度 健診項目別有所見率について

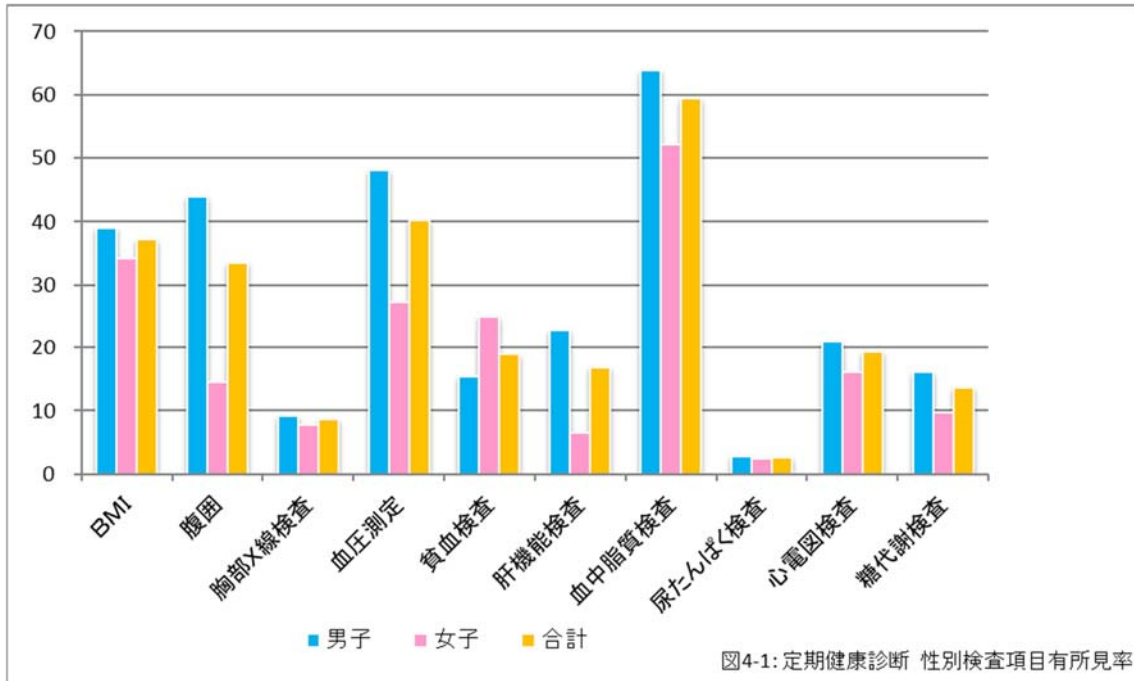
労働安全衛生法における定期健康診断の必須項目である身体検査（BMI）、血圧測定、尿検査等の実施者が多く、ほかの健診項目別の実施状況においては（表2）の通りである。

性別、健診項目別に有所見率をみると有所見の率が最も高い健診項目は血中脂質で59.5%であり、次いで血圧測定40.3%であった。

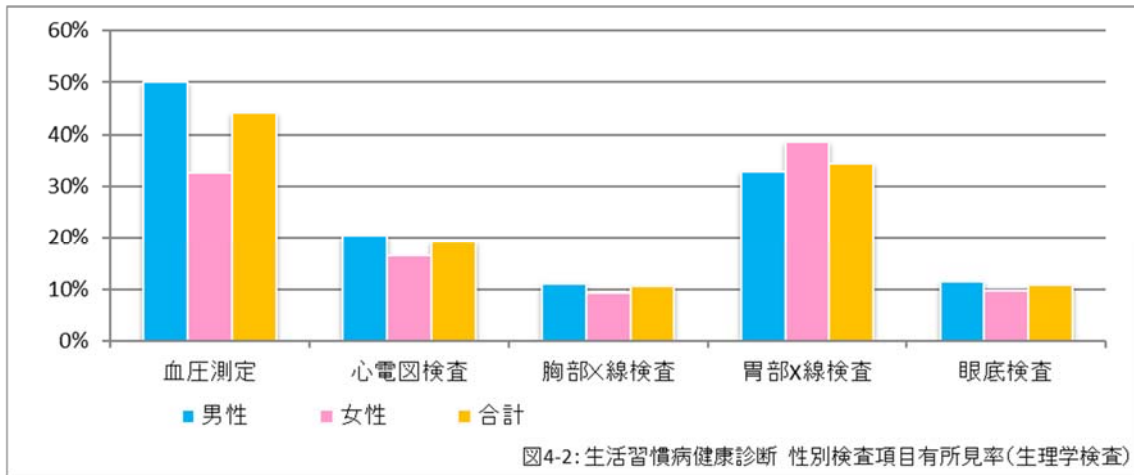
	男子	女子	合計
BMI	87,047	46,244	133,291
腹囲	87,928	15,926	103,854
胸部X線検査	16,915	8,122	25,037
血圧測定	107,192	36,904	144,096
貧血検査	29,604	28,131	57,735
肝機能検査	45,136	7,775	52,911
血中脂質検査	123,167	60,727	183,894
尿たんぱく検査	6,566	3,207	9,773
心電図検査	38,938	15,954	54,892
糖代謝検査	35,722	12,965	48,687

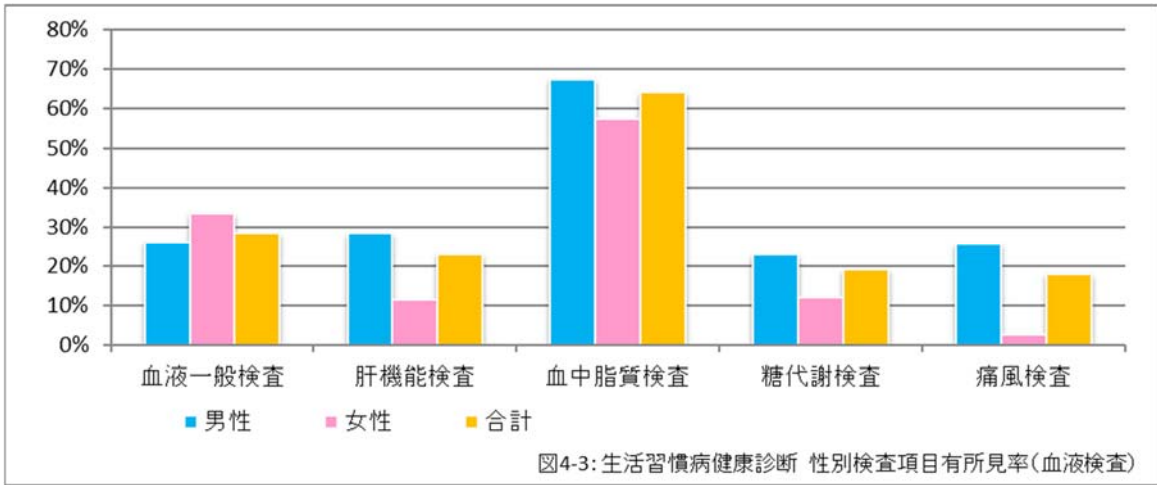
また、生活習慣病健康診断の性別、健診項目別に有所見率をみると（表3）有所見の率が最も高い健診項目は血中脂質検査で63.9%次いで血圧測定44.1%であった。性別においても男女ともに高いのは血中脂質検査（男性67.4%、女性57.2%）であり、男性で高いのは血圧測定（男性50.0%、女性32.7%）であった。

	有所見者数		
	男	女	合計
血圧測定	119,669	39,989	159,658
心電図検査	49,233	19,517	68,750
胸部X線検査	26,541	11,051	37,592
胃部X線検査	30,178	13,343	43,521
眼底検査	7,132	2,715	9,847
血液一般検査	61,951	40,970	102,921
肝機能検査	68,144	13,913	82,057
血中脂質検査	160,741	69,761	230,502
糖代謝検査	54,489	14,754	69,243
痛風検査	49,542	2,425	51,967
腎機能検査	28,772	28,837	57,609
便潜血検査	8,948	3,311	12,259



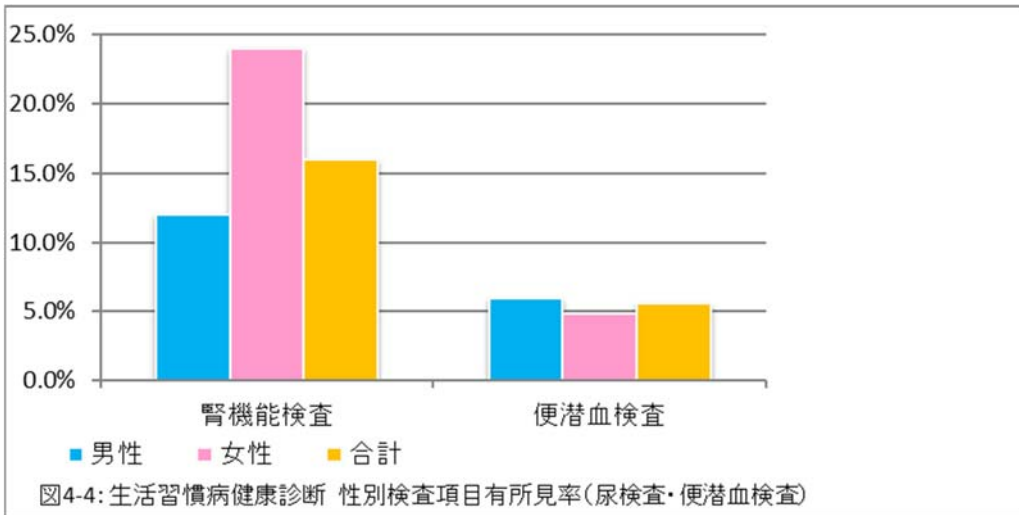
生理学検査で有所見率が最も高いのは血圧測定（男性 50.0%、女性 32.7%）であり、次いで高いものは胃部 X 線検査（男性 32.8%、女性 38.6%）であった。





生活習慣病健康診断において、血液検査で有所見率が最も高いのは男女ともに血中脂質検査（男性 67.4%、女性 57.2%）であり、過半数を占めている。次いで高いものは男性で肝機能検査（28.5%）、女性で血液検査一般（33.6%）であった。

尿検査、便潜血検査では、有所見率は腎機能検査が高く、男性 12.1%、女性 24.0%であった。女性に関しては、男性の約 2 倍と所見率に大きく差が見られた。



3. 2019年 作業環境測定の実施状況

2019年に作業環境測定を実施した事業場の総数は、事業場で首都圏を中心に北海道から大阪まで、1都1道1府20県に及んでいる。作業環境測定を実施した単位作業場所の延べ数は、7,264事業場所で、前年度と比較すると193単位事業場所の増加となった。実施項目別の延べ場所数については、(表4)に示す通りである。

表4：作業環境測定実施項目別の延べ作業場所数							
	有機溶剤	粉じん (石綿を除く)	石 綿	非金属類	金属類 (鉛を除く)	鉛	騒 音
合 計	2,981	1,205	0	2,165	424	16	473
対前年増減数	126	▲ 18	0	64	31	▲ 3	▲ 7

実施項目別の状況では、有機溶剤が全体の41.0%、非金属類が29.8%、粉じんが16.6%で、この3項目を合計すると実施全単位作業場所の約87%を占めている。

